

俵 賞



名古屋大学名誉教授
佐野 幸吉 殿

氏は、昭和7年東北帝国大学理学部化学科卒業後、同大学金属材料研究所において研究に従事、14年同大学助教授となり、15年名古屋帝国大学の創設とともに招かれ化学冶金講座を担当、17年同大学教授に昇任した。昭和31年より34年まで同大学工学部長、38年より44年まで教養部長を務め、45年定年退官した。その後、昭和47年から53年まで名古屋工業大学学長に選ばれ大学の運営に当たった。

この間、氏は鉄鋼製錬の基礎反応に関する化学冶金学的研究に専念したが、特に①種々の金属酸化物、硫化物、塩化物などに関する化学熱力学的研究②製鉄製鋼反応に関する物理化学的研究③未利用製鉄資源に対する選択塩化焙焼の適用に関する研究④鋼中非金属介在物の挙動に関する研究に数多くの有益な論文を発表し、斯界に貢献するところ大きいものがあった。

又氏は早くから研究者の育成、学生の教育に尽瘁し、特に技術革新の時代に対応しうる創造力あ

る科学者技術者を養成するための科学技術教育の改善に熱意を傾け、今日まで機会あるごとに唱導している。

本会に関しては、昭和41年から2年間会長としてその発展に尽力したが、特に41年9月から10月に本会が、派遣した訪欧鉄鋼使節団の団長を務めた。その後も元会長として絶えず会務に有益な助言を与えてきた。又昭和41年から47年にわたっては日本学術会議会員に選ばれ、学術の振興に努力した。

以上のような業績によって、氏は、本会においては昭和37年俵論文賞、44年西山賞、50年製鉄功労賞を受賞した他、日本金属学会から功績賞、論文賞、谷川・ハリス賞、学会賞、本多記念会から本多記念賞を受けた。氏は、昭和44年本会名誉会員に推挙されている他、ドイツ鉄鋼協会名誉会員、日本金属学会名誉員となっている。更に国家栄典として昭和54年勲二等旭日重光章を授与されている。

俵 賞



マサチューセッツ工科大学教授兼鉱物資源研究所所長
John F. Elliott 殿

氏は1920年米国ミネソタ州に生まれ、1942年ミネソタ大学金属工学科を卒業、4年間海軍士官として勤務後、MIT金属工学科大学院に入学、1949年理学博士号を取得した。同年USスチール基礎研究所に物理化学研究員として就職し、高炉レースウェイの本質に関する基本的研究を行った。1951年インランドスチールに入社、3年間研究所に勤務後、品質管理部次長となったが、1955年MIT金属工学科准教授として招かれた。1960年MIT教授、1978年からは同大学に設立した鉱物資源研究所所長を兼任現在に至っている。また1975年以来米国工学アカデミー会員である。

氏は熔融金属や熔融スラグの熱力学的数値の測定、ガス-金属間反応やスラグ、金属間反応の化学平衡と速度論的研究、溶鋼の脱酸反応およびその反応生成物の発生機構、金属の凝固現象につき研究を行い、鉄・非鉄冶金および金属材料溶製時の諸問題に解決と指針を与えた。さらに氏の酸化物、窒化物、硫化物の高温熱化学に関する研究成

果は耐火物の溶食機構を解明する上で大きい寄与をしている。これらの学術論文は200編を越え、物理化学定数に関する書を始め数々の著述を通じ世界の学会に貢献している。

日本との関係は既に20名以上の留学生を親しく指導、数次にわたる来日の度に講演、討論を通じ学界業界と熱心に交流、1974年には学振交換教授として来日、その良心的講義は深い感銘を与えた。1976年8月には米国で製鋼物理化学日米セミナーを委員長として主催、1983年5月冶金物理化学日米セミナーには米国側団長として団員とともに来日、日米交流に活躍した。

氏はこれらの数多い業績により米国西欧各国学会から数々の賞を受けているが、米国人で唯一人の米国鉄鋼協会名誉教授、米国採鉱冶金学会、フランス金属学会、ベネズエラ採鉱冶金学会の名誉会員である。我が国においては1974年第1回湯川記念講演者、同年本会名誉会員に推挙され、また1987年日本金属学会名誉員になった。